



目次

巻頭言 新たな附属図書館へ期待する	1
特集 電子ジャーナルアンケート	3
本との出会いを楽しむ<第12回>	7
図書館に関する話題<第12回>	8
他大学図書館紹介	9
Library News	10
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

新たな附属図書館へ期待する



附属図書館長 長谷川 成一

「最近、附属図書館内が少々うるさいのではありませんか。特に3階は!」と、附属図書館を利用された方から、館員を通じて私のもとに苦情が寄せられました(本年8月下旬に閉館する前で、通常に開館していた時期のこと)。本来であれば、直ちに館長名で「静粛にするように」との貼紙を館内に掲示するか、注意を喚起する全学一斉メールを発信するところです。しかし、私は敢えてそのような措置をとりませんでした。ご注意下さった方にはまことに申し訳なく思うのですが、内心、私たちが企図したことがある程度成就したのではないかという気持ちを持ったことも事実です。

一昨年、周知のように本館におけるアクティブラーニングの一環として、本館3階にラーニングスペースとラーニングスクエアを開設し、コンピュータ50台(以前は劣悪な環境下で30台しかなかった)を備えた情報サテライトを設置しました。その結果、情報サテライトのコンピュータ稼働率は90%を超えて全学ではダントツの利用となり、加えて本館全体の入館者数も前年度と比較して

10%ほど増加しました。ラーニングスペースとラーニングスクエアは、活発なディスカッションを通じてのグループ学習と研究成果の発表と討議など、双方向からの学習が可能になるように構想して設置しました。したがって、当該の施設が静まりかえっていても、3階の活性化という目的は果たせなかったこととなります。いささか不謹慎ではありますが、冒頭の苦情には困りつつも、ある程度の満足感をもって受け止めたのは、以上の事情があったからです。来年2月竣工を予定している新図書館においては、年々増加する蔵書量に対応できるように集密書架の増設、ラーニングコモンの増設やアメニティスペースの設置など、学習環境の整備と一層の充実を予定しています。

施設・設備などハードの面における充実とともに、よりいっそう大事なのは、ソフトの面とりわけ館員の意識の改革ではないかと思われまふ。かつてマスコミで、図書館の「貸本屋化」批判が喧伝され、ご記憶の方もおられるでしょう。さらにいえば、最新の設備を持つ図書館では図書の貸借

が自動化されて、館員の手を経なくともボタンを押せば希望の図書が直ちに手元に届くことから、最近では館員不要説まで飛び出してきています。もちろん、図書館業務は図書の貸借だけではありませんし、目録作成や図書情報の入力、電子ジャーナルの契約や運営など利用者には見えにくいですが、図書館を下支えしている業務は山積しています。

学生から寄せられた「図書館へのご意見」の中に、「職員が暇そうにしているが」などと館員を揶揄(やゆ)するような文言が見えるのは正直言って寂しい限りです。館員は連日、上記の業務を誠実かつ熱心にこなしており、私が館長に就任して6年間、「暇そうな」職員は一人として見かけたことはありません。学生諸君も大学の構成員としての自覚を持ち、館員の仕事を理解し建設的な意見を述べて欲しいものです。

来年(2014)3月、私は停(定)年を迎え、本学を去ることになります。館長として次の2つの希望を述べて新図書館への期待とします。

第一は、「貸本屋化」批判からの脱却を図るためにも、今後、貸出型図書館から大学図書館本来の使命である知的創造空間への進化をはかることが肝要です。加えて、館員が能動的に学術資料の相談やレファレンスを担当し、必要に応じて教職

員・学生へ各種資料や情報を提供することが、図書館サービスの大きな要になると予想されます。館員には、利用者と図書やネットワーク情報を積極的に結びつける努力が求められることから、利用者の相談にも広く対応できる力量を蓄えてもらいたいと考えます。

第二は、本館の持っている図書・資料資源の保存と有効な活用です。貴重資料保管室に保管されている官立弘前高等学校資料は、皆さんご承知のように本年9月21日の朝日新聞全国版に紹介され、太宰治自筆ノートは、本年6月18日の日本経済新聞文化欄でも取り上げられました。このように本学所蔵の図書館資源は全国的に見ても貴重な価値を有することが立証されており、これらを活用することで本学から全国的な発信が可能になりました。また、自校教育などへの活用に当たっては、資料館や学内各部局・施設と連携して進めてほしいものです。

私が館長に就任して数年が経過したころ、複数の教員から「附属図書館は変わりましたね」、と言われました。嬉しい言葉でした。新図書館の開館によってハード・ソフト両面で大きな変化が巻き起こり、新館長に「附属図書館はさらに大きく変わりましたね」、との言葉が贈られることを期待しています。

(はせがわ せいいち)

特集 電子ジャーナルアンケート

平成 25 年 6 月 3 日～6 月 14 日に教員及び大学院生を対象に実施した電子ジャーナルの利用に関するアンケートについて集計結果がまとまりました。この結果は今後の電子ジャーナル・データベース整備計画の参考とさせていただきます。

紙面の都合上、回答結果の概説としますが、回答結果の詳細は図書館ホームページ上で閲覧可能です。

<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/local/ej/kekka2013/kekka2013.html> (学内限定)

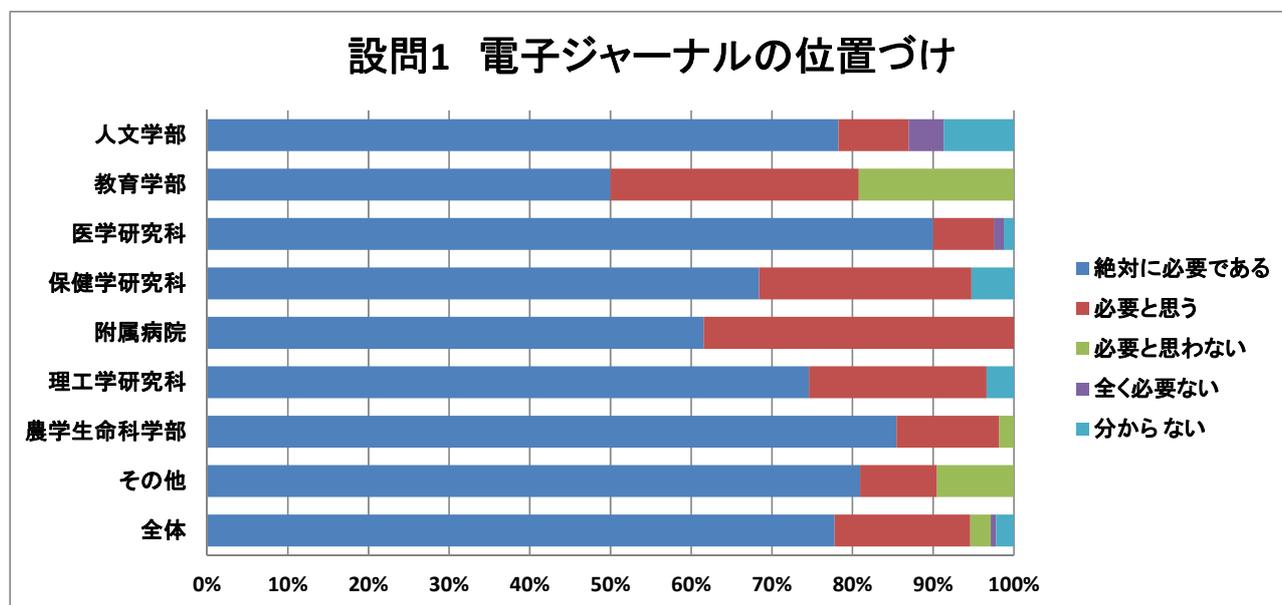
【回答状況】

回答率推移	H20	H21	H22	H23	H24	H25
教員・回答数	249	228	241	280	242	263
教員・回答率	36%	34%	33%	37%	32%	35%
大学院生・回答数	—	—	—	14	19	52
大学院生・回答率	—	—	—	1.7%	2.4%	6.8%

回答方法	回答数
アンケート用紙	156
Web フォーム	159
総 計	315

教員の回答率は 35% で、部局によりばらつきが見られ、電子ジャーナルの利用率の高い部局（医学研究科・理工学研究科・農学生命科学部）ほど、回答率が高い傾向（50%前後）があり、関心の高さがうかがえます。

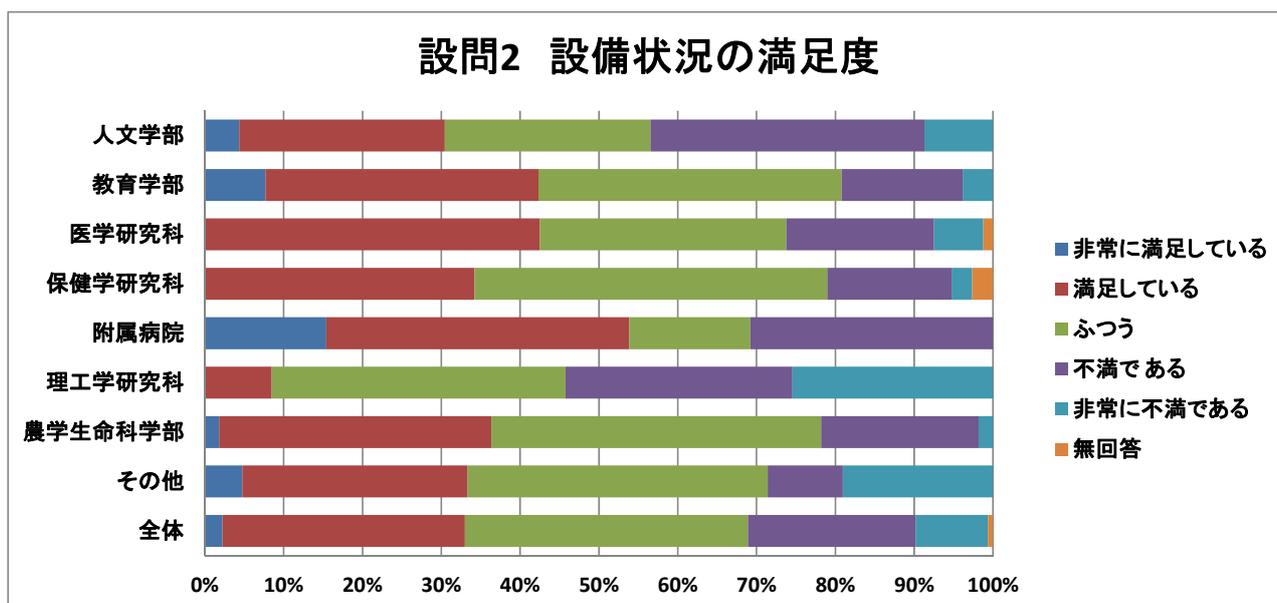
【設問 1】電子ジャーナル・データベースはご自分の研究上でどのような位置付けにありますか？



※その他＝地域社会研究科、各研究所・センター等

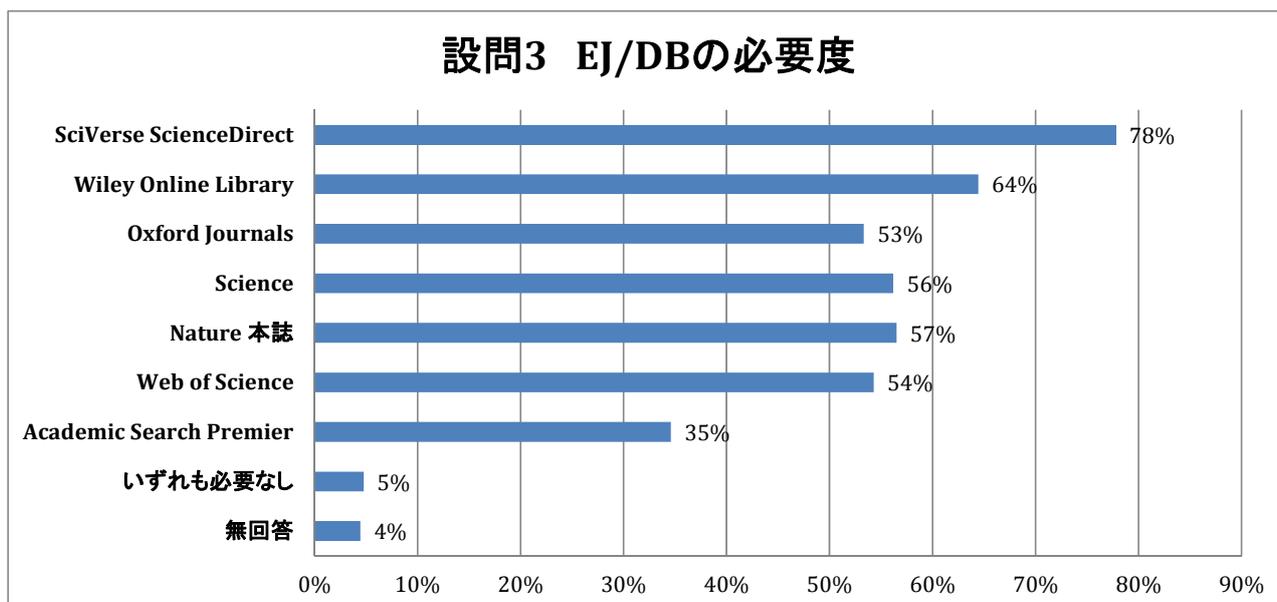
設問 1 については、「絶対に必要である」・「必要と思う」という回答が全体の 95% を占め、電子ジャーナルが研究する上で必要なツールであると認識されている結果となりました。部局別で見ると、教育学部が他の学部より必要度が低い傾向がありますが、それは、「研究分野が美術（実技）のため必要ではない」というような理由によるものと思われます。

【設問2】 本学の電子ジャーナル・データベースの整備状況について、満足していますか？



設問2については、「ふつう」が36%で一番多く、「非常に満足している」・「満足している」が33%、「不満である」・「非常に不満である」が30%と、満足している人と不満である人が半々に分かれたという結果になりました。部局別では、理工学研究科で回答者の半数以上の約54%が不満を持っていて、物理学(APS)、電気・電子工学(IEEE)、化学(ACS, RSC)の電子ジャーナルパッケージや、データベース(SciFinder等)を整備して欲しいという要望が多数ありました。また人文学部では、自分の研究に必須のデータベース(文学関係のデータベース、オンライン辞書、海外の法律データベース等)が整備されていないという理由で、不満度が高くなっているものと思われます。

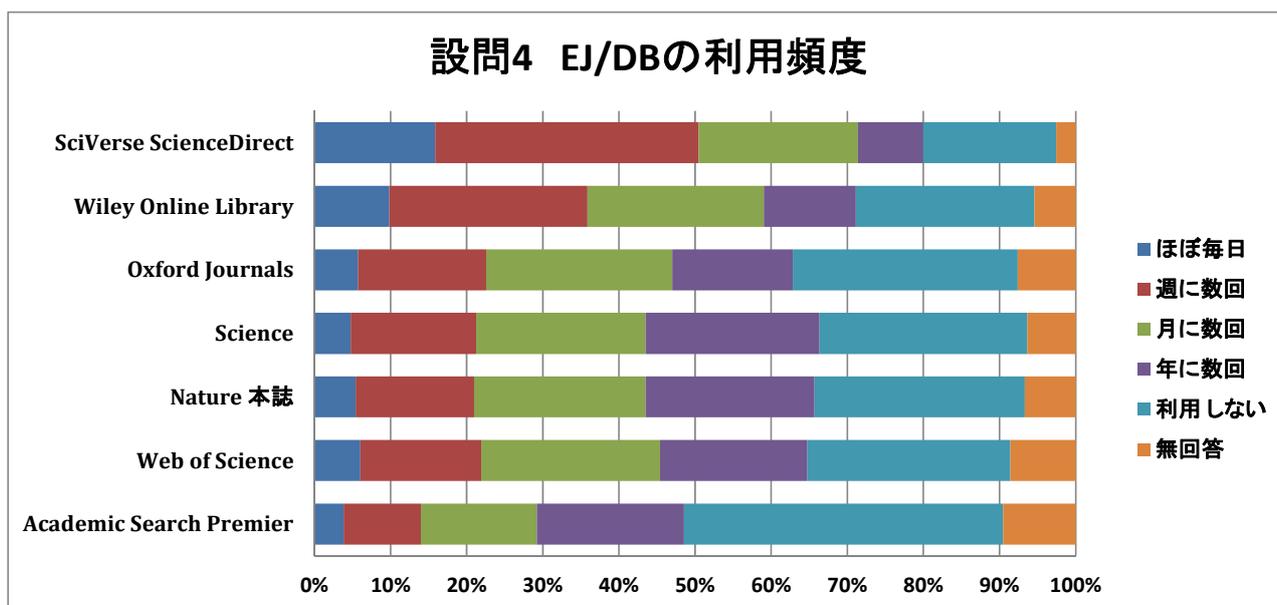
【設問3】 現在、附属図書館では、全学的経費により、5種類の電子ジャーナルパッケージと2種類の検索データベースを提供しています。今後も必要と思われるものに○をつけてください(複数回答可)。



設問3については、「SciVerse ScienceDirect」の78%を筆頭に、「Wiley Online Library」から「Web of Science」までは5~6割前後の人が必要であると答えています。「Academic Search Premier」が35%で人気がないものの、実際の利用率は決して悪くありません。(年間で3,564件(H24実績))これは各

出版社のバックナンバーを集めたアグリゲータサービスであり、Academic Search Premier だと意識しないで使っている人も多いのではないかと思います。最新1年分は見られないものの、Nature 関連誌等約 4,600 誌のバックナンバーが閲覧でき、幅広く他のパッケージを補完するような形で活用されています。

【設問4】現在、附属図書館で提供している電子ジャーナル・データベースについて、それぞれの平均的な利用頻度についてご記入ください。



設問4については、「SciVerse ScienceDirect」と「Wiley Online Library」において、「ほぼ毎日」・「週に数回」の割合が高く、頻繁に利用している人が多いという結果になりました。

【設問5】普段よく利用している電子ジャーナルやデータベースのタイトル名をご記入ください（自由回答）。

順位	タイトル	分野	EJ/DB	回答数	備考
1	SciVerse ScienceDirect	全般	EJパッケージ	25	Elsevier社。フリーダムコレクション・パッケージ契約中。
2	Nature	自然科学	EJ	19	Nature Publishing Group。サイトライセンス契約中。
3	Science	自然科学	EJ	16	AAAS社。サイトライセンス契約中。
4	PubMed	医学	DB	13	NLM/NCBI。無料で利用可能。
5	PNAS : Proceedings of the National Academy of Sciences of the USA	自然科学	EJ	12	図書館・全学共同利用雑誌。EJ only 契約中（単品）。

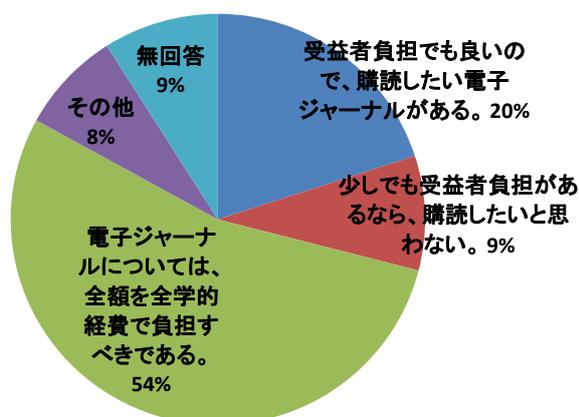
設問3・4でも見てきた通り、この設問5でも「SciVerse ScienceDirect」の人气が高く、1位となりました。医学系の論文を検索するには、無料のPubMedが良く使われているようです。

【設問6】 今後本学で整備して欲しい電子ジャーナルやデータベースがありましたら、ご記入ください（自由回答）。

※紙面の都合上、ここには掲載しませんので、ホームページをご覧ください。

【設問7】 附属図書館では、特定の研究分野や講座から要望の高い電子ジャーナルを新規導入する場合は、全学的経費と受益者負担の併用による購読形態とする、という方針がありますが、このことについてご意見をお聞かせください。

設問7 経費と受益者負担の併用について



現在既に導入済みのパッケージ・データベースについては全て全学的経費で負担しておりますが、今後新規導入する特定の研究分野の電子ジャーナルについては、全学的経費と受益者負担の併用を考えております。そこで設問7でご意見を伺ったところ、「電子ジャーナルについては、全額を全学的経費で負担すべきである」が54%で回答者の半数を占めました。しかしながら、「受益者負担でも良いので、購読したい電子ジャーナルがある」という回答も20%あり、今後の可能性を窺わせます。

【設問8】 その他、電子ジャーナルの利用についてご意見がありましたら、ご記入ください（自由回答）。

※紙面の都合上、ここには掲載しませんので、ホームページをご覧ください。

このアンケートは、平成20年度から毎年実施しています。皆様のご意見をお聞きし、今後の整備計画に役立てていきたいと思っておりますので、今後ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

研究推進部学術情報課資料管理グループ雑誌情報担当（附属図書館3階・臨時事務室）

Tel : 39-3157 Fax : 39-3171 E-mail : jm3157@cc.hirosaki-u.ac.jp

本との出会いを楽しむ 第12回

私の密かな楽しみ

人文学部教授 清水 明



アメリカの論理学者であり、ピアニスト、老荘思想家、奇術師でもあるレイモンド・スマリアンの『タオは笑っている』であったか『哲学的ファンタジー』であったか、そのどこかに、この種の話題についてはマーティン・ガードナーの『信じる理由』（原題：Whys of a Philosophical Scrivener、本邦未訳）を参照されたい、とあったのが、ガードナーの『信じる理由』との最初の出会でした。ガードナーの名前は「数学パズル」に関する本や『自然界における左と右』などの科学読み物の作者としては知っていましたが、「この種の話題」というのがかなり哲学的な話題であったので、そこにガードナーの名前が出てきたことに軽い驚きを覚えたものでした。

さっそく原書を手に入れ、一パラグラフずつ訳してゆくのが毎日の日課となったのは、もう七八年ほど前のことになります。研究や授業にはあまり関係ないので、もう完全に趣味の世界です。様々な公務の合間に、研究室に独り閉じこもり、少しずつこの本を読み訳すことが私の密かな楽しみとなりました。ここで公表してしまったので、もう密かではなくなりましたが、今は同じ著者の『夜は大きい』（原題はNight Is Large、この表題が訳せない。夜が大きいとは一体どういうことなんだ！）に進んでいますので、楽しみは今も続いています。いずれも、単なる身辺雑記や日々の心模様ではない、元祖モンテニユの『エッセー』やイギリス随筆文学の祖ベーコンの伝統を受け継ぐ本格的なエッセイです。

その間、おのずとわかってきたことは、ガードナーという人物は、単に数学パズルや科学読み物の作家ではなく、アメリカを代表するほどの知的巨人であるということでした。日本で言えば、政治から科学まで幅広い守備範囲を持つ立花隆というジャーナリストがおりますが、その立花氏を（立花氏には失礼ながら）一回り大きくしたような人物です。ガードナーは、アメリカへ亡命してきた論理実証主義を代表する哲学者のカルナップに教えを受け、カルナップと共著で『物理学の哲学的基礎』という本も書いている、専門家に限りなく近いジャーナリスト・エッセイストなのです。ジャーナリストとしての彼の書庫には膨大な量の資料があるようです。新聞記事、雑誌記事、著書その他、彼が興味を持つテーマ毎に分類された膨大な資料です。そこから彼は、政治、経済、宗教、科学、芸術、人間の行うことほとんどすべてにわたるテーマのエッセイを、ほとんど無尽蔵に生み出しました。なるほど、こうすればエッセイというものはいくらでも書けるものなのだ、と感心します。もちろんそれらの資料を捌いてゆく強靱で柔軟な知力が必要であることは言うまでもありません。えっ、と驚くような話も出てきます。『ドン・キホーテ』の作者はセルバンテスではなくサンチョであるとか、シャーロック・ホームズの作者はドイルではなくワトソンである、などです。本当かな？

（しみず あきら）

清水先生がご紹介いただいた「Whys of a Philosophical Scrivener」は、所蔵していませんが、マーティン・ガードナー著作の訳本「自然界における左と右」などは本館で所蔵しています。

所在：本館新書庫 2 層開架 請求記号：402/G22 図書ID：06123150

図書館に関する話題 第12回

文系図書の整備について

研究推進部学術情報課 齋藤 香織

附属図書館では、平成20年度から平成24年度の5年間にわたり、文系図書・資料の整備を行ってきました。整備の計画を立てるにあたっては、

(1) 叢書・コレクションの充実と叢書類の欠本補充、(2) 近年、本学で新たに設置された文系の学科・コースで、注目される学問分野の図書・資料の充実、(3) 近年世界的に注目が高まっているアジア（日本を含む）関係図書・資料の充実、を基本的な方針といたしました。

附属図書館では、毎年各部局の先生方10名以上に図書選定委員になっていただき、年に数回、担当分野を決めて学生用図書を選定していただいています。この方式は多様な分野の図書が選ばれるという利点がありますが、特定分野のまとまった資料を整備するには不向きです。一度に選べる金額に制限があるため、巻数の多いシリーズ物をまとめて購入することができず、その結果欠巻が出ることもなります。また、シリーズが完結する前に委員の先生が交替するという事も起こりません。図書館職員が覚えていて新刊が出るごとに購入すればよいのですが、実際にはシリーズ新刊が何年も出ないことも珍しくなく、多くの分野のシリーズを捕捉するのは中々難しいものです。

この5年間で、約30名の先生方に資料選定のご協力をいただきました。整備した主な分野として

は、哲学、心理学、宗教、歴史、考古学、政治・行政、国際関係、法律、会計学、教育学、社会学、言語学、日本文学、英文学、等が挙げられます。大部分の資料は開架や書庫にそれぞれ組み込まれましたが、平成23年度の教職関係資料については、コーナーを新設し、まとめて配架しました。

当初は1年目の平成20年度に5年分の資料を選定し、その後は毎年見直しを行いつつ、計画に沿って資料を整備していくことになっていました。しかし、挙げられた資料のうち金額にして2割近くがデータベース・電子ジャーナルで毎年費用が発生するため、やむなく購入対象外となったこと、他の分野とのバランスを考慮して購入を見合わせたもの、予定どおりに刊行されないもの、あまりに高額または入手困難な古書など、様々な事情により、3～5年目も毎年新たな先生方に選定をお願いすることとなりました。結果的には、当初の予定より多くの分野をカバーすることになったかと思えます。

平成23年3月には中間報告として、平成20～23年度に整備した文系図書および平成21年度に整備した理系図書の目録を発行しました。最終報告として、今年中に5年分の目録を刊行する予定です。ぜひ、今後の図書館資料活用の参考にしていただければと思います。

(さいとう かおり)

年度	冊数	主な整備分野等
平成20年度	2,258	多分野
平成21年度	4,777	多分野
平成22年度	310	マイクロフィルム類
平成23年度	1,120	教職関係、女性学、考古学
平成24年度	3,119	国際関係、イギリス史・アメリカ史、会計学、政治・行政、言語学、近現代日本文学、アメリカ文学
合計	11,584	

他大学図書館紹介

今号から、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムに加盟する図書館を紹介いたします。

東北女子大学

大学附属図書館と学生そして生徒を結ぶために

東北女子大学図書館長 佐々木 隆

東北女子大学は、家政学部が家政学科と児童学科からなる学校です。現在、図書館では管理栄養士コースの増設のための図書を多く購入しています。児童学科のために小学校教育や幼児教育の本があり絵本も揃えています。絵本は学生の心を癒しているようです。最近は家政と児童の中間の食育の図書も入ってきています。どちらの学科の学生にも、就職のためだけではなく、自分自身の健

康のためにも読むように勧めています。

図書館の中で本を紹介するだけではなく、館内に入ってこない学生のために、学内の掲示板に本を紹介しています。新購入の本だけではなく、読んでもらいたい関連の本の表紙をカラーコピーし、内容が少しでも分かるように目次などもコピーして貼り付けています。



初年度教育のために表紙を館外に掲示

学生の中には本自体に興味を示さない者もいるようです。特にネット時代となり、さらにスマホが普及して、情報が自由に入るようになり、本を読まなくてもよいと思い、図書館へ来ないようです。これは大学の図書館だけではなく高校と大学の教育の全体の中で克服してゆかなければならない課題です。

アメリカの大学では、4年間に480冊の専門書を読ませると言われます。日本の大学でも東大など新入生に読んでもらいたい本の紹介している所もありますが、先生の思い出の本の紹介や科目を受講するならこれぐらいは読んでほしいと言うもので、4年間の読書計画の見通しではありません。

つまり、入門書から専門書までの知識を積み重ねてゆく階段を作らなければ、学生が勉学で挫折するのは目に見えています。そこで、私はまず本を読む気になるように『心の扉を開いて』という読書を勧める小冊子を書き、3版まで改訂し学生や高校を含めた学校関係者に配布しました。陸奥新報で紹介して頂き、図書館の集まりでも各大学の司書や先生方にお渡ししたのでご存知かと思います。それがどこをどう伝わったのか香港の日本人学校（高校）の先生が初版をお読みにになり、東北女子大学まで話を聞きに来てくださいました。ジェンダー学の天野正子先生（東京家政学院大学学長）にも評価して頂きました。このことは多く

の人が生徒や学生を成長させるために、本を読んでもらおうと努力され、そのための読書指導の難しさを痛感し、悩んでおられるということです。現在、初年度教育及び入学前指導の副読本にでき

るように、小冊子の題名を変えて本にする増補改訂作業をしています。弘前大学附属図書館出版会から出していただける予定です。

(ささき たかし)



幼児教育の目的ですが癒しのためにも



寛ぐため、床やテーブルの色など工夫

開館時間 月～金 9:00～16:30
土 9:00～13:00

利用に関しては、図書館長が発行する依頼状が必要（メインカウンターに問い合わせ願います）

Library News

日本医学図書館協会総会に参加して

平成 25 年 5 月 23 日(木)～24 日(金)に、日本科学未来館を会場として開催されました。日本医学図書館協会は、1927 年(昭和 2 年)に創立した「官立医科大学附属図書館協会」に端をすする協会で、国公立の医・歯・健康・生命科学領域の専門図書館が加盟し、活発な活動をおこなっています。

初日は、平成 25 年度の事業計画案や予算案が審議され、事業計画案について、認定資格制度、国立ライフサイエンス情報センターの設置などの説明がありました。

2 日目は、以下、4 つの分科会が開催され、分科会 A と分科会 C 2 に参加しました。

1. 分科会 A 「診療ガイドラインの最新動向と作成支援」
2. 分科会 B 「患者さんへの医療・健康情報の提供」
3. 分科会 C 1 「研修手段としての e-Learning 導入の可能性を検証する」
4. 分科会 C 2 「医療関連学部生のための教育学習支援」

分科会 A では、診療ガイドラインの作成者(医師)と支援者(図書館員)から診療ガイドライン作成までの手順や医学図書館協会が作成支援した経緯など話題提供がありました。分科会 C では、日本及び韓国での学習環境の提供や図書館による情報リテラシー教育などについて話題提供がありました。

どちらの分科会も話題提供後、活発な議論が展開され、有意義な分科会となりました。

(医学情報グループ係長 佐々木忠)

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成25年4月～平成25年9月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	部数	所蔵先
弘前大学	弘前大学「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」事務局	「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」事業報告書 平成24年度	弘前大学「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」事務局	1	本館
人文学部	中村 武司	20世紀：1901年-1951年	慶応義塾大学出版会	1	本館
	保田 宗良	大鰐町活性化のための考察	弘前大学マーケティングゼミナール3年	1	本館
	日野 辰哉	経済行政法の理論：佐藤英善先生古稀記念論文集	日本評論社	1	本館
	松井 太	契丹「遼」と10～12世紀の東部ユーラシア	勉誠出版	1	本館
	関根 達人	函館・江差の近世墓標と石造物	関根達人	1	本館
教育学部	森本 洋介	最新 Study Guide メディア・リテラシー 入門編	リベルタ出版	1	本館
	蝦名 敦子	基礎造形教育におけるデッサンの目的と意義：絵画作品の幾何学的実証を通して	多賀出版	1	本館
医学研究科	水沼 英樹	今日からできるホルモン補充療法：HRT実践マニュアル	中外医学社	1	分館
	今泉 忠淳	酒蔵50景：写真集 続	水星舎	2	本館 1, 分館 1
保健学研究科	保健学研究科	弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療人材育成プロジェクト：活動成果報告書 平成24年度	弘前大学大学院保健学研究科	2	本館 1, 分館 1
		The International Symposium on radiation emergency medicine at Hirosaki University 4th	Hirosaki University Press	2	本館 1, 分館 1
理工学研究科	有賀 義明・片岡 俊一・上原子 晶久	平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震災害調査報告書：地震・地震動および社会基盤施設の被害	東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会	1	本館
農学生命科学部	澁谷長生・吉田 渉	ナマコ学：生物・産業・文化	成山堂書店	1	本館
	前多 隼人	基礎食品分析実験	文教出版	1	本館
地域社会研究科	佐々木 純一郎	東日本大震災における八戸圏域企業行動：災害時の物流等について：2012 あおもり県民政策ネットワーク自主調査研究事業報告書	あおもり県民政策ネットワーク	1	本館
生涯学習教育研究センター	深作 拓郎	大学の力を活用した子育て・子育て支援プログラムの検討研究報告書：弘前市受託研究	深作拓郎	1	本館
男女共同参画推進室	男女共同参画推進室	弘前大学つがるネッサンス! 地域でつなぐ女性人材活動報告書：平成22年-24年度 [本編]	弘前大学男女共同参画推進室	1	本館
		弘前大学つがるネッサンス! 地域でつなぐ女性人材活動報告書：平成22年-24年度 資料集	弘前大学男女共同参画推進室	1	本館
弘前大学医学部 鵬桜会	小野 淳信	遥かな医の道	津軽書房	2	本館 1, 分館 1
弘前大学名誉教授	松木 明知	華岡青洲研究の新展開	真興交易(株) 医書出版部	2	本館 1, 分館 1
	中屋敷 宏	原子力社会からの脱却：個人主義文明を超えて	七つ森書館	1	本館

	四宮 俊之	渋沢栄一と王子製紙株式会社：国家社会の為に此の事業を起す	渋沢史料館	1	本館
元教授	J.N.Westerhoven	De broodjesroofverhalen	Atlas Contact	1	本館
	佐々木 甚一	Proceedings of First AFSSA Conference on Food Safety and Food Security held at Osaka Prefecture University, Osaka, Japan on September 15-17, 2012 / Ryohei Kada, Jin-ichi Sasaki, Chowdhury Rafiqul Ahsan, Md. Latiful Bari, proceedings editors	Asian Food Safety and Security Association	1	本館
弘前大学出版会		知能機械工学実験・実習テキストA 平成25年度版	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		知能機械工学実験・実習テキストB 平成25年度版	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		太宰へのまなざし：文学・語学・教育	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		The 4th International Symposium : considering future natural and biological resource use from the Shirakami Mountain Range	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		The 1st International Sports Medical Science Symposium : the current state and future of the sports medical science	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		複製太宰治自筆ノート [英語]	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		複製太宰治自筆ノート 修身	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		十年間の歩み：弘前大学第十二代学長 遠藤正彦原稿集	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		A short history of anesthesia in Japan	弘前大学出版会	3	本館1, 分館2
		津軽から発信!国際緊急医療援助に生きる：朝日茂樹医師のJDR活動編	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		東日本大震災弘前大学からの展望(2011-2012)：それぞれの3.11	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		The International Symposium on Interdisciplinary Research and Education on Medical Device Developments	弘前大学出版会	3	本館2, 分館1
		基礎物理学実験の手引き 平成25・26年度版	弘前大学出版会	2	本館
		地域の環境と生活の実験演習 2013年度版	弘前大学出版会	2	本館
弘前大学生協同組合		弘前大学卒業記念アルバム	弘前大学生協同組合	1	本館



弘前大学附属図書館報「豊泉」第38号 発行日：平成25年11月29日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会
 発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1
 TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より